

31年度 堀越小の教育（グランドデザイン）



＜目指す学校像＞ **子どもと教職員が、学校に来ることを楽しみに感じる学校**

【新潟県学校教育の重点】

授業改善

児童生徒が主体的に学習に取り組めるよう、すべての教科等で、見通し・振り返りの学習活動を取り入れるなど、「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」が実感できる授業づくりに全校体制で取り組む。

授業力が向上するよう、教材研究を深め、お互いの授業を参観し合うなどして指導技術を高めるとともに、児童生徒の学びの姿から日々の実践を振り返り、指導の改善に努める。

道徳教育

思いやりをもち、自己や他者、社会にとってよりよい判断ができるよう、ねらいに即した多様な指導方法を取り入れるなど、「考え、議論する道徳」を推進する。

特別活動

他者への理解を深め、合意形成を図ることができるよう、学級活動や児童会・生徒会活動での話し合いを大切にするなど、児童生徒主体の活動を推進する。

人権教育、同和教育

差別を許さず、自他を大切に行動できるよう、『生きる』を活用するなど、同和教育を中核にした人権教育を推進する。

【教育目標】 ○すすんで学習にはげむ子ども

○すすんで役割を果たす子ども

○すすんで心身を鍛える子ども

【重点目標】 ○進んで考え確かな学力を身に付ける

○思いやりの心をもち、自ら考えて行動する

○めあてに向かってやり遂げようと努力する

【阿賀野市学校教育の重点】

☆基本理念：自立・信頼・共生が拓く、私たちの未来・ふるさとの未来

○自立：主体的に学び、協働的に問題の解決に取り組む姿

○信頼：人と人のかかわりに気づき、支え合う姿

○共生：互いのよさを認め、高め合う姿

【小中学校教育の重点】

☆保護者や地域の人々と課題を共有し、地域の特徴を生かし、地域とともに歩む学校づくりに取り組む。（開かれた学校づくり）

育てたい資質・能力

「主体性・自尊感情」「コミュニケーション力」「課題解決・情報活用力」

確かな学力の向上

＜目指す子ども＞

進んで考え確かな学力を身に付ける子

＜取組の内容＞

- 学習意欲を喚起し、学ぶ楽しさを実感する授業を行います。
- 全校テストを継続し、確かな学力の定着に努めます。
- 意欲的に家庭学習に取り組むための工夫を継続します。

【目指す成果】

- *児童アンケートで「授業が分かる」と答える児童を85%以上にします。
- *全校テスト（国・算）で80点以上とる児童を85%以上にします。
- *毎日、学年×10分の家庭学習に取り組む児童を85%以上にします。

生活科・総合を中心としたふるさと学習

豊かな心の育成

思いやりの心をもち、自ら考えて行動する子

＜取組の内容＞

- コミュニケーションの力を育てるため、学級内や異学年との交流を推進します。
- 様々な活動の中に、友だちよさや自分の成長に目を向ける場を取り入れます。

【目指す成果】

- *自学級以外のいろいろな人（異学年・地域）と話ができるようになったと感じる児童を80%以上にします。
- *友だちにも自分にも良いところがあると感じる児童を90%以上にします。

特別活動を中心としたふるさと学習

健やかな体・体力向上

＜目指す子ども＞

進んで体を動かし、めあてに向かってやり遂げる子

＜取組の内容＞

- 体を動かして遊んだり運動したりする機会を意図的に設け、体力向上に努めます。
- 体育的行事や体育授業の改善に努めます。
- 「元気アップ週間」を実施し、進んで健康でいようとする意識を高めます。

【目指す成果】

- *体力テストで県平均を上回る項目を70%以上にします。
- *6時半までに起きる児童を85%以上にします。
- *朝ご飯を食べてくる児童を85%以上にします。

＜幼保・小・中の連携、関係機関との連携＞

- ◆幼保・小・中の連携
 - *水原中学校区社会性推進委員会の組織的運営と活動の充実
 - *水原中学校区学習ルール、白鳥タイムの励行
 - *小小連携の充実(安野小・分田小との交流活動)
 - *保・小連携の充実(連絡会、相互の参観、行事への相互参加等)
 - *スタートカリキュラム、アプローチカリキュラムの共有
- ◆関係機関との連携(定期的な連絡会の実施)

＜地域・保護者の学校教育への参画＞

- ◆学校評価への参画(保護者アンケート、学校評議員会)
- ◆学習活動への参画(道徳授業等の参観、各種行事、生活科・総合の時間の支援、ふるさと学習の支援)
- ◆堀越シニア青年団、堀小サポーターとの連携・協働
- ◆交通安全や校地校舎の環境整備への協力
- ◆学校課題を協同して解決するPTA活動の推進

＜特別支援教育の充実＞

- ◆一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育を推進する。
- ◆個々の特性を理解できる子どもを育てる。
- ◆特別支援教育の啓発活動を推進する。
- *全職員が、全校体制で、すべての子どもにかかわり、目を向ける。
- *教育を学校職員だけで完結させず、保護者・地域の皆さん、保育園・中学校との連携、外部のあらゆる人材、自然、施設等を活用する。